令和 元年 8月 6日

豊明市議会議長 殿

豊明市議事課
元年8. -6
分類 ・ ・ 30・10・5・1
可・否・一部否・一時否
第500号 受付

研修会・講演会等参加報告書

議員名　ふじえ 真理子

令和元年度豊明市議会政務活動費にて下記の研修に参加しましたので報告します。

日 付	研修先	研修項目及び成果等
8月1日（木） ～2日（金）	全国地方議会 サミット2019 東京ビッグサイト （東京都江東区）	別紙のとおり

（注）別紙添付も可能とします。

（注）本報告書は5年間公開します。

全国地方議会サミット2019　～チーム議会が地域をより良くする～　報告書

豊明市議会議員　ふじえ 真理子

【研修日時・場所】
令和元年8月1日（木）～2日（金）　東京ビッグサイト 7階国際会議場（東京都江東区）

【研修目的】
人口減、超少子高齢社会、公共施設の縮充…山積みの問題を背景に国は「地方創生」を謳っている。国の押しつけではなく、本当の意味で“地域”が創生していくには、地方議会が担う役割は大きい。今回のテーマ「チーム議会が地域をより良くする」では、議員はもちろん、議会事務局職員も市民も市民団体も執行部側の職員も一緒になって、まちづくり「チーム」を組むことの必要性と実際の先進事例報告を聴きたいと思ったことと、今後、豊明市議会が「チーム議会」として目指す姿と取り組み方を模索・実現していくための参考にしたいと思ったこと、また講師陣やパネラーに魅力的な名前が並んでいたこともあり、参加した。

【研修メモ】
<1日目>
◎基調講演 「なぜ今“チーム議会”が必要なのか」
北川正恭氏（早稲田大学名誉教授、元三重県知事）

・ひと昔前の議会3大改革といえば…1）定数削減 2）議会費削減 3）政務活動費削減
（従来）量的削減➤➤➤（今後）質的充実
自分たちが地方創生の主役になる　住民への責任　政策条例をつくる流れをつくる
「地方議会から地方を変える 地方から国を変える」気概をもつ　NEXT ステージへ

・「議会事務局」から「議会局」へ…全国ですでに10カ所で名称変更している。
議事進行のフォロー、執行部との調整 から対等・協力関係へ←チーム議会としての覚悟
議員数より事務局職員が多いのは全国で東京都議会のみ。

・議長選挙…談合・申し合わせ（自分たちの都合で決めてきた）←市民に信頼されない。脱却を！
議会全体で信頼を得るためには透明・公開性は必須

◎パネルディスカッション「NHK 地方議員2万人アンケートのホンネ」
江藤俊昭氏（山梨学院大学教授）
杉田 淳氏（NHK 報道局選挙プロジェクト副部長）
久保 隆氏（NHK 報道局選挙プロジェクト記者）

・2019年1～3月に実施した NHK 地方議員アンケート

<調査概要>　全国1788議会（議員3万2450人）に議会事務局を通じて郵送

回答率59.6%（1万9325人：1万人が市議、7,000 人が町村議）　設問数216

～AI 分析による8つの分類～

☆地域密着アナログ型　3,017 人　☆八方美人現状肯定型 2,747 人

☆改革アピール正論対決型 2,552 人　☆内弁慶政策模索型　2,546 人

☆政治大好き支援者重視型 2,456 人　☆何がしたい?無気力型 2,001 人

☆何を聞いても無回答型　1,997 人　☆何でも重視熱血型　1,959 人

・アンケートの欠陥　「市民の負託に応えている」←本当か?!　市民に聞いた上で改革を!

・不祥事しかマスコミは取り上げない現状

・形式から中身のある政策サイクルへ　2・6・2の法則☜「何でも重視型」を広げていく

・岩手県町村議会議長会（昭和50年代制定、原文から若干修正）を紹介

〔議員の信条〕

議員は、地域に偏することなく住民全体の代表者たることを自覚し住民福祉向上のために奉仕すること

議員は、牽制均衡の原則をよく理解し執行権に介入しあるいは馴れ合いとならないよう是々非々の態度を貫くこと

議員は、住民に代って執行機関を批判・監視し明るい地域社会づくりのためによく協調し合うこと

議員は、住民の信頼を受けた公人でありその言動に公私混同のないように慎むこと

議員は、事を審議し決定することが任務で住民の心としてあらゆる角度から論議して実質審議に徹すること

議員は、事を批判し主張するときは実効性のある代案をもって臨むこと

議員は、議会内に派閥をつくらずよりよいものに向かってみんなが知恵を出し合い楽しく話し合うこと

議員は、議場において感情的な発言をしたり勢力競演の場としないよう慎むこと

議員は、規律ある議会運営に努めとくに発言は簡潔直さいにしその範囲をこえないこと

議員は、住民の福祉を願う政策の論議と活動こそ議会の本務であることをわきまえること

◎パネルディスカッション「チーム議会に職員だからできること」

清水克士氏（滋賀県大津市議会局次長）

小原昌江氏（岩手県北上市議会事務局議事課長）

岩崎弘宣氏（茨城県取手市議会事務局次長）

小林宏子氏（東京都羽村市議会事務局長）

・やりがいのある職場がどうか　→良い市民サービスにつながる

・お茶くみ・コピーとり・公金以外のお金の管理　→　返上した

・幸せを感じている。まちへの愛がある。関心を互いにもつ。役割分担をしている…議案の課題

を見出すのは議員の役目、ファシリテーターとして市民や団体とコラボレーションするのが職員の役目。やりたい仕事をやっている。笑顔いっぱい。

・事務局職員向け研修時に講師として出向いたときに聞いてみた。
「誰のために働いていますか？」　…「議員のため」と答える人がいた←おかしい
「市民のため」であるはず

・市民感覚と議員感覚のズレがある　…事務局職員がチームの一員として議員が気づかない、放置してきたことを言うことが大事。

・議長選挙…法律では4年任期。でも1～2年で交替が多い。法律を無視した運用になっており、法の編み目をくぐっている。これを行政がやったら議会は黙っていないでしょう？

・議長立候補制…プロセスの公開がないと、談合と思われてしまう。「水面下での調整」は美しい言葉か？→透明性に欠ける。

・議員が勝手に視察に行ってしまうのはやめてほしい（事務局同士、お互い様でやりとりしているため）

・一般質問通告書…きちんと調べたのでしょうか？という内容を見かける

・「自分中心で世界がまわっている人」が多いと感じる

・職員を下僕と思わないでほしい。常任委員会等の行政視察は議長の命令で公務であり、帰るまでが視察。

・選挙に受かると免罪符？！　職員は数十倍率の試験を突破してきている。議員になる倍率は2倍もない。市民の立場に立った発意を。

・上司である議長の OK ではじめて提案できる。会議の活性化につながる提案をしている。
議長の度量が大事。

・事務局職員から議員への声かけ。議員と視点の違いがあれば言ったらいい（環境改善）。議員にない論点を提示（公式部分でないところで）している。議案上程後は議員の審査になるので口を挟めない。上程前であれば、例えば当局側から条例制定の説明があれば、少ない先進事例や不足している資料を事務局職員が集めている。

・委員会の中でも事務局発言可能←市をよくしたい思いから。例）議会基本条例策定時、議員の自由討議の場に事務局職員も出席し意見を言った。メニューを出すのが事務局職員、チョイスや決定するのは議員。議会改革に取り組み始めた平成20年当時の議長から「どんどん発言をしてくれ」と言われた。最大会派やボスと言われる議員の得票数を考えれば（全有権者数から見れば）怖くない。おかしいときには議員に対して「黙って下さい」とも言う、言える関係になっている。

・改選時に空白（議会として機能停止する）期間について、改選後によってそれまでの議会改革が後退するのを防止する策→その1つが議会基本条例
議長2年交代…事務局長＋新旧正副議長で引継ぎしている。改選時には、前正副議長の思いを事務局が新しい正副議長に伝える役割も。

・任期4年のスケジュールをたてる。

議員の自己評価+大学先生（市在住）で第3者評価をしている→次の議会への申し送り→次の議会としてのミッションロードマップを考える（議会改革後退の防止）。
→事務局は、決定はできないが、スキームを考え提案をしている。

・新しいことへの取り組みはエネルギーが要る。リスクもある。軌道にのっても業務量が右肩上がりになると職員から不満は出ないか？
→1人で考えてしまうことはない。委員長や議長にその都度確認しながら進め、周りに相談しながらで助けてもらっている。ルーティンワーク（議決機関の遂行）で改善点があれば協議する。新しいことが増えても、大変だという声は今は聞えてこない。ただ、今後は議員に担ってもらうことも増えていくのかなと思う。タブレット活用で職員の仕事も改善されている。

・日常会話など職員に近い目線で。改革案でる。既得権に縛られず新しいものに対して柔軟さを。職員は目線を上げられない、議員が目線を下げて。

・前例踏襲だったことを、各自調べて発信、やりがいがある。委員会の活性化の事務局も提案する。職員の仕事が増える？←望むところだ。

・事務局職員向け研修時：「希望して議会事務局にきた人は挙手を」→参加者200人でゼロ。見て見ぬふり、知ってて知らぬふりは「社会的手抜き」
「〇〇局長がいるなら、議会事務局で働きたい」　　質的充実を！

・東京都墨田区の議会基本条例第24条で、円滑かつ効率的な議会運営及び議会活動の充実を図る目的を達成するため、議会事務局は議会に対し提案を行なうことができる旨を明記している。

・執行部にいたときにはボトムアップで事業のアイディアが採用されることがあった。議会事務局にきても一緒だと思ったら文化が違った。事務局の提案権を条例に入れるのは現実的にはありなのかなと思う。

・事務局の仕組みを変えていくとき、チーム議会でできることは？
しくみより人。議長に任命権あり。適任（資質のある人：与えられた職分で頑張る人）を引っ張ってくる。今は人気局になっている。1つ回り出すと「あの人、活き活きと仕事しているな」となる。そのきっかけをつくる→議長の任命権。局職員も巻き込んでいく文化・発想を持ち帰り広げてほしい。

◎先進事例紹介「AI・ICTで議会の未来を切り拓く（その1）」

松田崇義氏（株式会社メディアドゥ Smart書記事業部長）

・メインビジネスは電子書籍取り次ぎの国内最大手

・Smart書記…音声をリアルタイムで文字起こしすることができるサービス

1）即時編集　　2）データ出力　　3）自動翻訳

→訂正学習機能により利用すればするほど認識精度が向上

活用例：インタビューの書き起こし、講演・セミナーの書き起こし、会議・打ち合わせの議事録や商談メモ、リアルタイム字幕で記者会見など映像表示

※すでに600社以上のトライアル利用実績あり

※徳島県知事の定例記者会見で活用　　AI 要約サービスの効果

書き起こし時間　10時間→2時間（80%短縮）

一般公開までの日数　　即日公開

・テクノロジーや IT 活用の流れの波が遅かれ早かれくる。議会における職員や議員の業務効率化…議論の活性化＋若年層の関心を強める

・導入の初期費用はゼロ　　1カ月テスト期間→契約→10万円～/月　コスト

・クラウド活用

◎講演「チーム議会の視点から見る議会・議員の役割」

片山義博氏（早稲田大学教授、元総務大臣）

・チーム…スポーツではチームの使命は勝つこと

チームとして議会の使命は？

議会と似たようなチームは？

例）会社の取締役会（月1回　重要なことを決定。議案を可否、修正していく場）

使命は「決めること」　　執行役員が実行

心1つに企業価値をあげるため、生産性や収益あげるために議論し結論を出す

例）裁判所…　起訴されてあがってきた事件を処理する　決める場

裁判官に会派はない。すべて有罪（無罪）にしてやる、では成り立たない。

先入観にとらわれずみんなの意見を聞いて議論して判断　是々非々

⇔チーム議会　と同じ

・条例は、市民の権利を制約するものもある。義務を課すものもある。

・利害対立ある。でも決めなければならない

・税負担決める場が議会　　アメリカ）財源不足したら〇〇税を上げるとか…

日本）財源不足なら交付税もらえばいい　になっている

歳出カットや市民の理解を得て税を上げる←嫌なことでも1つの結論を出していく

・自転車の車輪　　ハブ…首長　　スポーク…議員

個別に首長とつながっている。スポークはチームではない。首長にべったり与党や野党ではチームはできない。国会では多数派が与党を形成する、地方では首長と議員が直接選ばれる二元代表制。その議員が車輪になっていてはダメ。

・起訴案件（議案上程）が本当に正しいかどうかをチェック。

論告求刑（提案理由説明）を聞く。検察官が言っているから死刑だ（首長が考えたことだから間違いないから賛成：ところてん）ではダメ。場合によっては公務員本位のもの、政府のままが下りてくることも。他にもっといいものはないか？

→①被告人陳述は必ずある　　②証拠固め（証人・鑑定）

議会では…①条例の本質は住民の権利を制限したり義務を課したりする ←嫌だという意見
（発言）できる場が必要＝公聞会で議員も聴くことが大事
②参考人質疑
※検事が論告求刑して、被告人陳述なく終わる…これではダメ（議会も同じ）

・市民の意見を役所を通してきくなどとんでもない！
例）そこに保護者を呼んで直接聞く（証拠固め）
チーム議会 →みんなで証拠固め・事実の確認を！
会派単位ではなく委員会単位でやればいい

・物事を決めることが一番大事！
限られた予算の使い方を決める、本当にバランスがとれているか判断する

・当局は議会に説明するより前にどんどん発表すればいい。市民の方が先に知ればいい。
それを踏まえて修正すればいい。

・マスコミにも情報出せばいい。意見が侃々諤々でれば議会で修正→決定すればいい

・大事なことは、決定したことに責任をもつこと。
死刑（1人の命を無くすこと）…きちんと確かめて死刑にしたという説明が必要
いい加減だと会社に対しては損害賠償（取締役会の責任問われる）請求
決めたのは私たちという自覚を。
例）いじめなくならず、教員の多忙化解消が進まない ←市教育委員会がしっかりしてないから（責任感ない）。教育長や教育委員を選んだのは誰？ 最終的に良しと判断したのは議会。なぜ同意したのか。市教育委員会を批判することは＝天に唾を吐くことと同じ。教育委員の人事案件…少なくても委員会の中で見識ある人かどうか、一人ひとりしっかりチェックをするべき。

・条例を決めたら、議会が管理を！
現在、例規集は執行部が管理している。議会の知的財産。法令を管理できる職員を議会に配置せよ。決めたことに責任をもつということ＝チームで管理＝住民への説明責任

・条例の棚卸しを！ 弁護士など法曹に明るい人が必要
社会の変化に対応していない条例は議会がイニシアチブをとって廃止や改正を。
「どうせ執行部から廃止や改正が出てくる」はダメ。行政は既得権で変えたくないこともあるから。

・条例文がわかりにくい。難解用語が出てきたら「わかるように用語を変えなさい」「平易な言葉で書いて下さい」

◎総括 北川正恭氏（早稲田大学名誉教授、元三重県知事）

・市長や知事が出した議案は絶対に通さないといけない と思い込んでいる公務員
修正があっても良しと考えられる公務員に。 馴れ合い首長はダメ

・市長と議会がなれ合うと執行部は必ず緩む。総体としての議会活動を。
地方創生は忖度していてはできない。
・飯綱町で7回議長を務めた寺島氏。マニフェスト議長選を実施、議場で質疑応答、すべて公開。「議会改革は議長選挙がスタートでした」。議長中心のリーダーシップ。決定機関であるというプライドをもて。
・一人ひとりは空気銃でも、議会となればバズーカ大砲になる
・善政競争を。共有して「うちでもやろう!」。草の根民主主義。

<2日目>

◎先進事例報告 「チーム議会の実践と課題」

千葉茂明氏(月刊「ガバナンス」編集長)
早苗 豊氏 (北海道芽室町議会議長)
諸岡 覚氏 (三重県四日市市議会議長)
梅村 均氏 (愛知県岩倉市議会議長)

◇早苗氏

議会改革の3つの柱　1)情報公開　2)住民参加　3)機能強化

1) 情報公開…議会HP(全ての議案見られる)、本会議・委員会ネット中継・SNS活用・議会だより年12回発行・議会白書

2) 住民議会…議会モニター、町民との意見交換会(高校生とも実施)、議会改革諮問会議(見識ある市民にテーマをもって議長が諮問)、議会ホットボイス

3) 機能強化…議員研修、議員間討議

※改革は「目的」ではない。住民の福祉向上をいかに達成するか。議会改革は意識改革。

◇諸岡氏

平成12年 正副議長選出における立候補制の導入
平成13年 議会事務局に法制担当職員を配置
平成16年 市議会モニターの設置
平成17年 対面式質問席の設置
平成18年 シティ・ミーティングの開催
平成23年 議会基本条例施行、通年議会開始
平成25年 専門的知見の活用(補助金に関する調査業務委託)
平成27年 議員1人1台タブレット端末の貸与開始
平成29年 政務活動費を後払い方式に変更
平成31年 高校生議会開催、常任委員会の委員任期2年化

※失敗してもいいからまず始めよう、という風土がある。
1勝0敗より10勝9敗の意識で取り組んでいる。

◇梅村氏

議会報告会を定例会後ではなく、定例会前に開催し予算審議に市民の意見を反映。

新たな議会報告会を模索。従来型の予算決算の報告にこだわらず、執行機関の重点政策をテーマに設定して市民と意見交換を行なった（H30年度は3回実施）。

若者との意見交換会（市民団体との共催）…若者の質問に対し議員が答弁するスタイル

議会サポーター制度…住民基本台帳から年代別無作為抽出500名から9名応募、公募で13名の計22名でスタート。1人年間 3,000 円のクオカード謝礼

委員会代表質問…行政視察の成果、ふれあいトークにおける市民の意見について政策型質問を実施するために制度化

・・

・議会事務局に求めたい人材は？

法的知識に加えてワクワクする意欲をもった人。そういった気分にさせてくれる人。

政策条例をたくさんつくっているので法制担当の職員の必要性を感じ、配置した。

・条例改正し任命権を明確化。法務に強い人を要望。資料化に長けていると助かる。議長が言わないと事務局動かない、待ちでなく積極的意見が必要。推進協に局長も参加しているが同じように事務局から発言（提案）ができるといい。

・議長のリーダーシップ＋事務局の知恵 で一気に進めた。この時、事務局が手法について主体的に関わる風土があった。ミーティングでブレーンストーミングやりながら、事務局も入って知恵を出してもらっている。

・政策勉強会　毎年5月に第1回目開催でテーマを募集→会派単位で3～7つ挙がってくる→3～4つのテーマに全体会で調整し収れん→分科会開催（1人で複数の分科会に参加可能）開催頻度は分科会により5～20回/年→1年で結論出す→必要に応じて分科会から特別委員会に格上げし条例制定も行なっている。

◎パネルディスカッション「チーム議会の視点から首長との関係を考える」

北川正恭氏（早稲田大学名誉教授、元三重県知事）

谷畑英吾氏（滋賀県湖南市長）

越田謙治郎氏（兵庫県川西市長）

上村 崇氏　（京都府京田辺市長）

・独任制（市長）と合議制（議会）…独任制の選挙では民主的正当性は弱い。議会は民意を持ち寄った集合体という点において、民主的正当性は強い←合議制の強さ

・議会はチェック機関…監査委員制度あるのに？！

→違う立場の人とで合意形成する議会が決めたことから、外れていないかをチェックすること

・マニフェスト選挙を実施。年限を区切ったものと4年間で取り組むことを明記

・行政幹部職員にまだ女性や、大きなハンディキャップをもった人がいない←行政の限界

多様な価値観をもつ議員で構成する議会で議論することが大事になってくる。

・議員と市長との違い…市長は毎日数件の意思決定を求められる。まるで卓球しているみたい。多様な考えが欠ける傾向があるのに対し、決まった時間軸で区切られているのが議会。

・先の市長選挙で応援してくれた議員←当選議員の中で市長に対して一番厳しい。議員は首長と厳しく対峙していくことで議会の信頼を得られるのではないか。

・市民の多様性を具現化しているのは議会。

・議会としての意思決定をしているか？　本会議で起立するだけでなくきちんと行政と対峙を。

・職員は議員の駒使いではない！一緒に模索していく仲間として迎えてほしい。もし駒使いの文化が残っていたら切り取ってほしい。

◎先進事例報告「チーム議会の視点から選挙のあり方を考える」

中村 健氏（早稲田大学マニフェスト研究所事務局長）

則武宣弘氏（公明党岡山市議団）

中原淑子氏（公明党岡山市議団）

林 敏広氏（公明党岡山市議団）

・会派マニフェストを活用した選挙と会派・議員活動のサイクルについて

2011年統一地方選挙で議会改革や議員のあり方等が争点になった。改選後に公明会派から議長が誕生、行政よりも先を行く政策プランが必要ということで政策立案をスタートさせた。政務活動費を使って1万人アンケート調査、聞き取り調査、データ分析を行ない、政策アドバイザーとして大学教授と連携。平成26年に完成。具体的な成果は、作成した創生プランの9割以上が実現もしくは前進。2019統一地方選挙では市議団の共通項目（会派で共有した実績や結果）を法定ビラ等に掲載。マニフェスト大賞に応募し数々の賞を受賞することで外部から評価され、自信と信頼性がアップしている。

◎先進事例紹介「AI・ICTで議会の未来を切り拓く（その2）」

米田英輝氏（東京インタープレイ株式会社代表取締役）

・議会ペーパーレス化とその波及効果

SideBooksクラウド本棚：8/2現在　全国ですでに180の議会（利用議員数3,900人）が採用している

県内事例が3つを超えると導入が一気に加速する傾向がある

タブレット導入効果…市民への説明時に活躍、大量の資料を持ち運べる、印刷・配布業務が大幅に減る、過去資料の活用が進む

今後の展望…自治体間での議案や計画の共有、より分かりやすい資料の研究が進む、資料の下読み機会が増え審議が深化する、SideBooksのデータベースをAIが分析する　など

◎パネルディスカッション「チーム議会の視点から市民との関係を考える」

佐藤 淳氏（青森中央学院大学准教授）

瀧野良枝氏（長野県飯綱町議会議員、元飯綱町議会政策サポーター）

竹下修平氏（愛知県新城市議会議員、元新城市若者議会議長）

原口佐知子氏（静岡県牧之原市 市民ファシリテーター）

田口裕斗氏（岐阜県可児市議会高校生議会、現 立命館大学3年）

・チーム議会の中に志ある市民も入ってもらう

・議員からのレスポンスの良さが自分事になるきっかけとなった

・対話によるまちづくり…初めは反対していた議員もマニフェスト大賞受賞で新聞に掲載されると理解を得られるようになった。今では市民主催のワークショップに議員も参加、学校の先生も参加し活発になっている。

・「いい地域をつくるために、いい市民を育てていく」「いい議員を育てるために、いい市民になる」。市民自治の底上げをしていきたい。議員でできないことを私たち市民がやる（役割分担すればいい）。

◎パネルディスカッション「国会は地方議会をどう見ているか」

石破 茂氏（自由民主党 衆議院議員、元地方創生担当大臣）

稲津 久氏（公明党 衆議院議員、党地方議会局長）

逢坂誠二氏（立憲民主党 衆議院議員、元ニセコ町長）

廣瀬克哉氏（法政大学教授）

・「やりっぱなしの行政」「頼りっぱなしの民間」「無関心な市民」これらが三位一体となると必ず地域は衰退する。→ これらは許されないと言えるのは地方議会である

・地域がもっている潜在力は何か？どのように伸ばしていくか？

・国のお仕着せでは歯車に合わないところには無理がでてくる

・地域のことを考えるには時間がかかる

・地域づくりはまず、自分の地域の実態を知ることから。それを踏まえて、どんな地域になりたいのか？

・ただ企業誘致をすればいい、単に人が来ればいい、だけを考えてるとそのまちはつぶれる
私たちはどんな暮らしをしたいのか？を徹底的に考える。

・国からプログラムを提示されると、それに合せるのではなく落ち着いて地域のことを考えることが不可欠。

・地方議会はもっと自由でいい。慣習にとらわれているのは残念。公聴会を多用して。

・住民には傍聴ではなくて議場（委員会室）に来て発言してもらうことが大事。臨場感。批判材料をもってくることのできる場が大事。実際の当事者になれるから。

・住民の意識が変わるのを待っていたら変わらない。議員が能動的に動く。

・〇〇計画を策定するのに、外部コンサルタント会社に頼んでつくったかどうかは見ればすぐにわかる。経済のことは役所より地銀がよく知っている。情報は役所より地元新聞社が知っている。そうした地域資源を活用して自分たちの頭で計画をつくることが大事。

・東京一極集中への歯止めがかかっていない。なぜか？
地方からこれでいいのか、と声をあげてほしい。

・自主自律が求められている時代に、地方からの陳情要望が増えている。このままでは国はつぶれる。国の上げ膳据え膳では地方はうまくいかない。

・実質的な意思決定と手続き的な意思決定

◎総括　北川正恭氏（早稲田大学名誉教授、元三重県知事）

・地方議会の存在感を増すことが地域や国にとって大事なこと

・「一頭の蝶が北京で羽ばたけば、ニューヨークでハリケーンが起こる」
共鳴→誘発→爆発　　気づきの連鎖で小さな一歩から大きなうねりを！

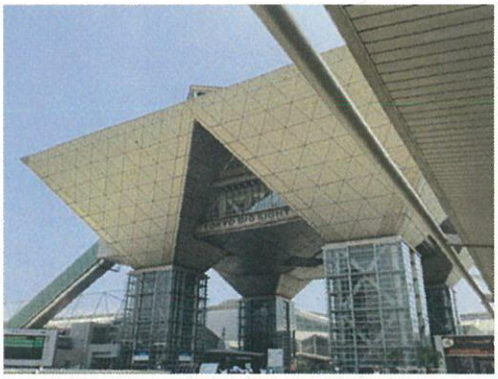
【ふじえの所感】

自主自律が求められる時代。豊明のまちがいかにその精神をもっているか問われている。北川氏が言う「地方議会が地方を変え、地方が国を変える」という気概。今回の研修の大きなテーマ「チーム議会」として動く重要性とそのための具体的手法でいくつか参考にできるものがあった。全員協議会第2部（議会改革関連の協議）でタイミング等を見計らいながら、提案していきたい。

議会事務局職員の役割、議員をどう見ているか、議長による局長の任命権、法制担当職員の配置等々、月刊雑誌で読むだけでなく生で先進事例に触れる機会がもてたことは、今後の議員活動に留まらず、議会としての活動時にもプラスになる。念頭に置いて発言・行動していく。

改選後の議会改革後退防止策という視点からも常に議会基本条例をベースに、4年任期に議会として取り組む全体像を、誰が見てもわかるロードマップの作成もこれからは必要だと考える。

首長からみた議会や思い、市民自治のレベルアップに貢献している市民、若者＆議会の接点の場を議会側から設けることの大切さ、国会議員による地方議会への三者三様の視点からも新しい気づきを得ることができた。



豊明市議会の中だけで言えば、自分がその中の小さな1頭の蝶となり時間はかかっても議会の中でうねりとなるように動いていくこと。また、日本全体を見渡し、豊明市議会が1頭の蝶となり、それが大きなうねりとなって国を変えていく気概を一人でも多くの方（議員・事務局職員・市民…）と共有、共鳴し合える議会風土をつくっていきたい。